

バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No:59



2013年8月

NPO 法人 日本バスケットボール振興会

BB3



瞬発力が、加速する。

軽さとグリップ性を高めた新ソールで、よりクイックに。

WAVE REAL BB3

ウエーブ リアル BB3 13KL-24009 ¥13,650(本体 ¥13,000)

サイズ: 23.0~30.0, 31.0, 32.0cm ベトナム製

※記載価格は、消費税込みのメーカー希望小売価格です。

()内は消費税抜き本体価格です。



目 次

- 男子日本代表世界選手権出場成らず・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 F I B Aアジア選手権で9位と惨敗
- 日本協会新専務理事に「星」氏・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- N B L運営法人が発足・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 今年も中学生クリニックを開催・・・・・・・・・・普及部・総務部・・・12
- 昭和初期「明治大学籠球部のアメリカ遠征」・・・・・・・・歴史部・・・17
 — その2 アメリカでの転戦 —
- 日本で初めてバスケットボールが行われた場所・・・・・・・・普及部・・・22
- 代々木第二体育館の生い立ち・・・・・・・・・・武井 淳・・・23
 『建築資料に見る東京オリンピック』シンポジウムに参加して
- 人物抄
 中野富郎さん・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
- 島立登志和さんW J B L功労表彰・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
- 会員だより
 バスケットボール湘南だより（その3）・・・・・・・・ 中瀬達郎・・・29
 死ぬまでバスケットボール・・・・・・・・ 山田直秀・・・32
 バスケットボールに魅せられて・・・・・・・・ 佐々木政治・・・34
 バスケットボールに出会って・・・・・・・・ 塩沢千寿留・・・36
 地方から始まるバスケットボールの活性化・・・・・・・・石井一生・・・37
- 第66回インターハイ成績・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
- N B L 2013～2014 シーズン日程・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
- N B D L 2013～2014 シーズン日程・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
- W J B L開幕は11月から・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
- バスケットボール書物紹介（その2）・・・・・・・・・・須田武志・・・57
- 事務局だより・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
- プラザ こぼればなし・・・・・・・・・・・・・・・・ 61

男子日本代表世界選手権出場ならず

F I B A アジア選手権で 9 位

[編集部]

8月1日からフィリピン・マニラで開催された第27回男子アジア選手権大会兼世界選手権大会予選で、男子日本代表は予選ラウンドにおいてホンコン・チャイナに1勝したが、2次ラウンドを含めて1勝4敗となって決勝ラウンド進出ならず、2014年8月、スペインで開催される世界選手権大会への出場権を逸した。この大会に日本は、下記のメンバーで臨んだが、アジア各国のレベルが日本を上回って決勝トーナメント（上位8チーム）進出さえできず惨敗となった。

主なスタッフ

役 職	氏 名	所 属
チームリーダー	佐古 賢一	日本協会
ヘッドコーチ	鈴木 貴美一	アイシンシーホース
アシスタントコーチ	納谷 幸二	岡山商科大学付属高校
S & C コーチ	小山 孟志	日本協会

選 手

No	氏 名	P	身長 c m	体重 k g	年齢 歳	所 属 (出身校)
4	松井 啓十郎	S G	188	83	27	トヨタ自動車アルパルク東京
5	田中 大貴	S G	191	88	21	東海大学4年(長崎西高校)
6	比江島 慎	P G	190	87	22	アイシンシーホース三河
7	太田 敦也	C	206	110	29	浜松・東三河フェニックス
8	渡邊 雄太	S F	201	82	18	
9	栗原 貴宏	S F	192	82	25	東芝ブレイブサンダース神奈川
10	竹内 公輔	P F	206	98	28	トヨタ自動車アルパルク東京
11	櫻井 良太	P G	194	85	30	レバンガ北海道
12	桜木 ジェイアール	C	203	105	36	アイシンシーホース三河
13	辻 直人	P G	185	84	23	東芝ブレイブサンダース神奈川
14	金丸 晃輔	S G	193	78	24	アイシンシーホース三河
15	ショーン・ヒクトリー	P F	200	95	22	
平 均			196	90	25	

年齢所属は7月現在

このアジア選手権大会には、アジア各サブゾーン予選を経た15チームが出場し、四つのグループに分かれて予選ラウンドを戦い、各グループ上位3チームが6チームずつに分かれ2次ラウンドに進み、それぞれ総当たりリーグ戦を行う。その後2次ラウンド上位4

チーム、計8チームによるトーナメント方式決勝ラウンドで順位を決定するハードな大会。

[予選ラウンド組合せ]

- グループA チャイニーズ・タイペイ、ヨルダン、フィリピン、サウジアラビア
- グループB ホンコン・チャイナ、日本、カタール
- グループC 中国、イラン、韓国、マレーシア
- グループD バーレーン、インド、カザフスタン、タイ

[2次ラウンド]

- グループE Aグループ1～3位とBグループ1～3位
- グループF Cグループ1～3位とDグループ1～3位

対戦結果 8月1日予選ラウンド

チーム	1 P	2 P	3 P	4 P	合計	勝敗
日本	25	16	20	13	74	●
カタール	21	14	18	22	75	○

日本は開始早々から#9 栗原の速攻で先制点を挙げると、#12 桜木がミドルシュートを決め、更に#14 金丸の3 Pシュートなどで優位に試合を進め、第2ピリオド日本は連続得点で開始4分に33対21と12点の差をつける。しかしカタールも日本のファウルなどで得点を重ね41対35の6点差で前半を終える。#14 金丸はシュート確率100%で15点を叩き出した。

第3ピリオドも#14 金丸や#9 栗原らの活躍で前半と同様の試合展開で進み、このピリオドで61対53と8点をリードする。第4ピリオドもこのまま行くかと思われたが、カタールの連続3 Pなど必死の攻撃に対応しきれず、開始4分40秒に63対65と逆転される。その後も一進一退の展開となり残り1分を切ったところで72対74と2点のビハインドとなる。逆転を狙った日本のシュートも相手の高さに阻まれ時間が迫る。ファウルゲームに持ち込んだ日本は最後に#6 比江島が3 Pを決めるが時すでに遅し、結局74対75の1点差で敗れる。日本はこの大会開始早々痛い黒星を喫した。

対戦結果 8月2日予選ラウンド

チーム	1 P	2 P	3 P	4 P	合計	勝敗
日本	25	16	23	12	76	○
ホンコン・チャイ	24	16	13	6	59	●

日本は途中出場の#13 辻が3 Pシュートを3本決めるなどして勢いづくかに見えたが、ディフェンスが甘く相手にいいように3 Pシュートを決められ、25対24の1点リードで第1ピリオドを終わる。このピリオドの3 Pシュートは、日本が4本決めたのに対して、相手は6本も決めていてディフェンスのまずさが目立った。第2ピリオドに入っても日本のディフェンスの甘さは変わらず、得点しても相手に入れ返される展開となり前半を終えて、41対40と1点差のままであった。

後半に入ってようやく日本の攻撃が機能し始めて残り1分13秒に64対51と13点の差をつけた。第4ピリオド両者ともシュートが入らなくなり重い展開が続く。しかし残り5分に#13辻が3Pシュートを決めると、#9栗原の速攻も出て73対56と17点をリードした。その後はまたリズムの悪い試合展開が続き、結局76対59で日本が勝ったが、ロースコアのあまりよくない試合展開であった。

対戦結果 8月5日2次ラウンド

チーム	1P	2P	3P	4P	合計	勝敗
日本	14	22	15	20	71	●
フィリピン	17	29	29	15	90	○

2日間の休養を経て臨んだ2次ラウンド最初の試合、日本は開始早々からミスが続くようなゲーム展開ができない。対するフィリピンは3Pがよく決まり高得点で完勝した。

第1ピリオド日本は、ターンオーバーが続いて得点が伸びず3分に0対6とリードされたが、そこから#14金丸や#10竹内のシュートなどで食い下がり14対17の3点ビハインドで終わる。第2ピリオドに入るとフィリピンはじりじりと日本を引き離し、終盤に入って3本の3Pシュートなど外角シュートを次々と決めて36対46とフィリピンが10点をリードする。

後半追いつきたい日本だったが逆にミスが続き、フィリピンの連続3Pシュートなどで開始4分には40対61と大量リードを奪われる。その後もフィリピンの勢いは止まらず、51対75と決定的な24点の差をつけられる。第4ピリオド何とか点差を縮めたい日本だったが、ミスも出てリズムをつかめず点差を詰めること僅か5点で残り5分となった。

日本はその後も積極的にシュートを打つが決めるには至らず、相手フィリピンのリズムカルなオフェンスに翻弄され19点差をもって完敗した。この試合フィリピンは実に12本の3Pシュートを決めたが、日本代表は外角ディフェンスの弱さを露呈した形となってしまった。

対戦結果 8月6日2次ラウンド

チーム	1P	2P	3P	4P	合計	勝敗
日本	25	16	18	17	76	●
チャイニーズ・タイペイ	22	22	17	18	79	○

第1ピリオド日本は#14金丸の3Pを含むシュートと#10竹内や#12桜木のシュートで先制し、開始2分で9対2と好調な出だし、しかしその後チャイニーズ・タイペイも徐々にペースを掴んで接戦となり、8分に18対18の同点にされる。終了間際#9栗原がオフェンスリバウンドから得点して、25対22の3点リードでこのピリオドを終わる。

第2ピリオドに入ると相手の3Pシュートなどで開始2分に28対29と逆転される。その後一進一退が続きお互いに逆転の繰り返しとなったが、残り1分を切ってからリバウンド争いで日本がファウルを犯し41対44の3点ビハインドで前半を終える。

第3ピリオドは競り合いそのものの展開となった。日本が得点すれば相手も入れ返すと云った展開が続き、日本は#9栗原に変わって出場した#5田中の2本の3Pシュートなど

で粘りをみせ、残り3分で57対56と1点リードする。しかし2分を切ってから日本のファウルが4以上となり相手のフリースローによって59対61と逆転される。

勝負となった第4ピリオド、日本は#10 竹内や#12 桜木のインサイド陣が果敢に攻めて得点を重ねるが、相手も執拗にゴール下や外角から得点しリードを譲らない。残り1分余りとなったとき日本は#11 櫻井のシュートで1点差と詰め寄ったが、相手にバスケットカウントを決められ、残り45秒で73対77と4点差をつけられてしまう。その後ファウルゲームでねばった日本だったが逆転には至らず結局76対79の3点差で敗れる。これで日本は決勝ラウンド進出が危うくなった。

対戦結果 8月7日2次ラウンド

チーム	1 P	2 P	3 P	4 P	合計	勝敗
日本	13	11	11	21	56	●
ヨルダン	15	15	15	20	65	○

この試合に負けると決勝ラウンド進出がなくなる日本は#10 竹内や#12 桜木のインサイド陣の奮闘で順調にスタートしたが、第1ピリオド終了間際に相手#11 に3Pシュートを決められ、13対15と逆転される。第2ピリオドに入り逆転したい日本は、ディフェンスを頑張る相手に苦しいシュートを打たせる体制をとったが、ヨルダンはエース#8 を起点に得点を重ね3Pシュートも含めてさらに得点差が開く。日本はメンバーを入れ替えたりしていろいろと試みたが点差を詰めることができず、前半を終えて24対30と6点のビハインドとなった。

第3ピリオドに入ると3Pシュートを含めてヨルダンに連続得点され、開始2分過ぎに24対37と決定的なリードを許してしまう。日本は6分間でフリースロー1点のみという拙攻で5分過ぎには25対43とこの試合最大の18点差となる。しかしその後#13 辻の連続3Pシュートなどで盛り返し、このピリオドを35対45と10点のビハインドで終わる。第4ピリオド追いかける日本はディフェンスでプレッシャーをかけて相手ミスを誘うがなかなか点差が縮まらない。それでも#9 栗原や#13 辻のシュートなどで残り3分によく7点差に詰め寄る。タイムアウト後のヨルダンが再び3Pシュートで2桁リードすると、日本も粘りの攻撃をしてファウルゲームに持ち込んだが相手にフリースローを決められてタイムアップとなり、結局9点差をつけられて敗れた。これによって日本の決勝ラウンド進出はなくなり、9位から12位決定戦へ回るようになった。

対戦結果 8月9日 9位～12位決定戦

チーム	1 P	2 P	3 P	4 P	合計	勝敗
日本	16	13	21	23	73	○
インド	25	16	13	10	64	●

順位決定戦に回った日本は、まずインドと対戦したが2m台の選手が4人いるインドに苦戦、第1ピリオドではシュートも入らず16対25と9点のビハインドなる。第2ピリオドに入ると相手に外角から3Pなどを決められて点差は更に開き、日本は残り3分を切ってから必死の追い上げて点差を詰めたが、29対41と12点差で前半を終わる。

第3ピリオド日本は早いバスケットを展開し、#5 田中の連続得点や#12 桜木の活躍などで一気に詰め寄り、残り3分で46対48と2点差としたが相手に粘られて50対54の4点差でこのピリオドを終わる。

第4ピリオド早く追いつきたい日本だったが相手に粘られて残り5分まで4点差のまま経過する。タイムアウト後#11 櫻井、#10 竹内の連続得点でようやく同点にした後#12 桜木のインサイドシュートで61対59と逆転に成功する。その後#13 辻の3Pシュートなどの追加点で66対59とリードを広げる。最後インドにファウルゲームをしかけられたが、日本はフリースローを確実に決めて73対64の逆転勝利となった。

対戦結果 8月10日 9位決定戦

チーム	1P	2P	3P	4P	合計	勝敗
日本	17	21	15	26	79	○
ホンコン・チャイ	16	13	9	12	50	●

第1ピリオド日本は#14 金丸が先制点を挙げるがその後シュートが入らず、5分に6対8と相手にリードされる。残り3分を切ったところで今大会初出場の#8 渡邊が思い切りの良い攻撃で連続5ゴールを挙げ17対16と1点をリードする。

第2ピリオド日本は#7 太田を投入すると早速インサイドで奮闘し、オフェンスリバウンドから得点するなどいい活躍を見せ38対29とリードを9点に広げて前半を終わる。

第3ピリオド#11 櫻井、#14 金丸、#8 渡邊らが得点を重ねる。一時お互いにシュートが決まらずこう着状態の時間があったものの、日本はオールコートディフェンスから相手のミスを誘い得点を53対38に伸ばす。

第4ピリオド#14 金丸の連続3Pシュートで流れを引き寄せ、厳しいディフェンスで相手を苦しめて更に得点を重ね、全員出場79対50と快勝した。

アジアで3位以内を確保して世界選手権大会出場を狙った日本だったが、結果的に惨敗という言葉が当てはまる今回のアジア選手権大会となった。世界選手権出場どころか、アジアではるか下位に甘んじたことについて、日本バスケットファンの失望は計り知れない。

この結果を真摯に受け止め、バスケットボール界全体で反省して次のステップに進み、男子日本代表チームを立て直さなければならない。

結果を見ての通り男子についてはアジア各国がレベルアップしているのに対して、日本はレベルダウンの感が否めないことは試合のデータを見ても明らかである。

日本協会強化部において、日本の男子バスケットボールを立て直すにはどうしたらよいかを至急検討すべきではないだろうか。

なお世界選手権大会は、この2014年大会から男子のみ「FIBA ワールドカップ」と名称変更される。

昭和初期「明治大学籠球部のアメリカ遠征」

—— その2 アメリカでの転戦 ——

[歴史部]

昭和7年(1932)12月27日アメリカへ上陸した一行は、早速29日と30日にワシントン州シアトルでワシントン大学と対戦した。結果はワシントン大学の一方的な勝利であったが、会場のワシントン大学体育館は1万数千人分の観客席が完備し、赤いネオン方式の電光掲示装置でスコア、タイム、プレイヤーの名前までスイッチひとつで操作できる設備に一行は驚いたという。試合の方は身長、体重、技量の差により2試合とも相手のワンサイドゲームになってしまった。



明治大学 ● 26-88 ○ ワシントン大学

明治大学 ● 13-79 ○ ワシントン大学

年が変わった昭和8年1月3日、明治大学はシアトル在住の日本人チームと対戦し勝利したが、アメリカ大陸訪問中に勝利できたのはこの試合を含めて僅か3試合だった。(以下対戦成績は別表参照)

一行はシアトル滞在中、観光もしている。シアトルの刑務所を訪問した時、収監されている囚人から「ハローメイジ」と呼びかけられ驚いたと云う。シアトルでは新聞やラジオで明治大学バスケットボールチームのことが紹介され、その行動は市民におおいに関心をもたれたようである。新聞、シアトルタイムズから「日本はオリンピックでアメリカから教わった水泳を奪っていった、また野球も奪った、今度はバスケットを奪いに来たのではないか」と報道され、冷やかな目で見られたこともあったようだ。

約10日間のシアトル滞在後、一行は1月11日、北太平洋鉄道(グレートノーザン鉄道)に乗ってモンタナ州へ向かい、高地であるボーゼマンに移った。

モンタナ州ではモンタナ大学と対戦したが、ここでもワンサイドゲームで完敗だった。ボーゼマンでは親日感情が大変良く、フラタニティハウス(学生たちが衣食を共にするシェアハウス)という立派な学生寮を宿舎として提供された。一行の中には英語が話せる者が4名ほどいて、腹が減ったときはこのハウスの台所を預かる料理担当のおばさんを日本の5銭白銅貨1枚で買収して、美味しいハムを手に入れたこともあったという。

ここではそれ以外にモンタナ州の学生たちが14人分のスキー道具をそろえてくれて、一緒にモンタナの山へスキーに出かけたが、何しろ経験したことのないスキーだったので、驚愕したという。

モンタナ州で手厚い歓迎を受けたあと一行はミネソタ州セントポールへ向かった。セントポールでは日本にバスケットボールを普及させたF. H. ブラウン氏に会うこととなったが、同氏が250kmも離れた遠方から自動車を飛ばして会いに来てくれたことに感激した。ミネソタ州ではカールトン大学と対戦したが、力の差は歴然で勝つことはできなかった。



一行はそれから再び汽車に乗ってウィスコンシン州マディソンへ向かう。この汽車は寝台車だったが、一行のために発車時間前に停車場に1輛だけ用意してくれて定刻前に乗り込むことができた。そして列車が走ってきてその1輛を連結して運んでくれるので非常に都合が良かったという。翌1月25日未明にマディソン駅に着いたときは、その1輛を切り離して置いていってくれ、いつまで寝ていても大丈夫だったらいい。

マディソンではアメリカの名コーチ・ミーンウェル博士に指導をしてもらえることになり、ウィスコンシン大学へ向かう。

ウィスコンシン大学は校庭の一部に絶景の湖があり、山あり川ありの広大で素晴らしい大学であった。ミーンウェル博士は、一行を美しい森を通り抜けた静かな湖畔の自宅へ案内し、温顔で親しく話をしてくれた。

ウィスコンシン大学には新・旧二つの体育館があつて、旧館の方には種々の記念品、写真、ウィニングボール、トロフィーなどが飾られ、さながらバスケット博物館のようだったとか。博士は新館で作戦やプレーを自らシャツ1枚になって懇切に指導され、最後に練習試合もやってくれて一行は感激したが、試合ではやはり勝つことはできなかった。

その後、ミシガン州、カンザス州へと転戦した一行は、2月2日、バスケットの創案者J.B.ネイスミス博士と会うこととなった。

カンザス州ローレンスに所在するカンザス大学で、70歳を越えたネイスミス博士は古い写真を持ってきて、日本にバスケットボールが伝わった頃のことをいろいろと説明してくれた。その話によると、日本のYMCAで始めてバスケットボールを体験した人の一人に石川源三郎という人がいたというが、その頃から既に40年余りが経過している。記録によれば明治大学がバスケットボールの創案者ネイスミス博士と面会できたことは、実に運が良かったと記されている。また、カンザス大学ではアレン博士という名コーチに練習を指導されたが、ドリブルなどの基本的なことが多くそれほど目新しい内容ではなかったようである。



その後はカンザス州からコロラド州を経てネバダ州へと50時間以上の列車生活を終えて、ネバダ大学と対戦したがここでも勝利はなかった。当時不景気だったネバダでは、滞在予定を繰り上げて次の予定地カリフォルニア州へ向かう。

カリフォルニアは、今まで見てきた広漠無限のアメリカ大陸原野とは違って、芝生が青々と生えていて熱帯性を帯びた樹木とともに、一見アメリカ唯一の楽土を思わせた。

環境的にも日本と少しも変わらず、米飯も味噌汁も生きのいい刺身も食べられるカリフォルニアは、これまで転戦してきた各地とは比べ物にならないほどの楽天地に思えた。ここでは日本人経営のホテルに落ち着き、湯船のある日本式フロに入った時の心持は日本へ帰ったような気がしたという。そして一行がサンフランシスコに着いたとき、そこに日本人が多く見かけられたことにいささか安堵した。

「羅府新報」(ロサンゼルス新報)によれば、カリフォルニア州では1930年の人口140万人のうち、日系人は9万7千人余りいたという。そのせいかここではサンフランシスコ在住の日系人と試合をしている。2月16日、ストックトンで「ジャパニーズ・デュークス」というチームと対戦し、アメリカ遠征以来2度目の勝利を収めた。

サンフランシスコからカリフォルニアに転戦した一行は、領事や日本人会の招待などで在留日本人と親しくなり、ロサンゼルス・オリンピックでの水泳日本の活躍話に花を咲かせたりして、ここで2週間も滞在した。

ロサンゼルスを去ってサンフランシスコに戻った一行は、80日以上アメリカ本土遠征を終えて、日本郵船・秩父丸でハワイへ向かう。遠征の間40試合以上の転戦、50回以上におよぶ招待、8,000km(5,000哩)に及ぶ汽車の旅は、辛いこともあったがアメリカの学生たちの好意が嬉しく愉快的思い出となった。

ハワイ州ホノルルに到着した一行は、ハワイに2週間滞在し、6回の試合と観光を楽しんだ後、3月28日日本郵船・龍田丸で帰国の途に着いた。

アメリカ遠征における試合記録(試合結果が判明しているもののみ)

ワシントン州

シアトル	12/29	明治大学	●	26-88	○	ワシントン大学
シアトル	12/30	明治大学	●	26-88	○	ワシントン大学
シアトル	1/3	明治大学	○	43-34	●	シアトル在住日本人チーム
タコマ	1/5	明治大学	●	34-62	○	ビューゼット・サウント大学
スポーケン	1/10	明治大学	●	34-50	○	ゴンザゴ大学

モンタナ州

ミズーラ	1/13	明治大学	●	19-67	○	モンタナ大学
ボーゼマン	1/16	明治大学	●	20-62	○	モンタナ州立大学
ボーゼマン	1/17	明治大学	●	29-51	○	モンタナ州立大学

ミネソタ州

ノースフィールド	1/24	明治大学	●	26-44	○	カールトン・カレッジ
----------	------	------	---	-------	---	------------

ミシガン州

イストラヴィング	1/28	明治大学	●	15-63	○	ミシガン州立大学
グランドラピッド	1/29	明治大学	●	29-70	○	ミシガンステートカレッジ

カンザス州

トペカ	2/1	明治大学	●	16-56	○	ウォッシュバーン大学
エムポリア	2/3	明治大学	●	23-59	○	エムポリア教師チーム

ネバダ州

リノ	2/7	明治大学	●	30-47	○	ネバダ大学
----	-----	------	---	-------	---	-------

カリフォルニア州

パロアルト 2/13 明治大学 ● 17-30 ○ スタンフォード大学

ストックトン 2/16 明治大学 ○ 35-19 ● ジャパニーズ・デュークス

ハワイ州

ホノルル 3/23 明治大学 ○ 39-36 ● 中国人チーム

ホノルル 3/25 明治大学 ● 22-91 ○ ヘンリーバスケットチーム

3月28日にホノルルから龍田丸で帰国の途について一行は、10日間の船旅の後4月6日午後横浜港へ到着した。

帰国後鈴木俊平監督は、「アメリカ本土で36戦し12勝24敗、その後ハワイで6戦行い、合計42試合14勝28敗で、あまり良い成績ではなかったがアメリカのバスケットボールを理解することは十分できた」と語り、特にミシガン州やカンザス州といった中西部のチームは相当強かったと感想を述べている。この談話から上記の記録以外にも多くの試合をこなしたとみられ、スコアは不明だが、カリフォルニア州では上記以外にも7試合を行っている。



一行は帰国後の翌々日4月8日に開催された座談会で、アメリカのバスケット状況については事前にある程度理解していたが、身長、体重と云った体格差についてはいかんとも仕方がなかったと語り、アメリカにおけるバスケットボールの人気の高さを直接感じたという。

昭和7年(1932)ロサンゼルスで開催されたオリンピックにおいてバスケットボールは正式種目として採用されなかったが、明治大学がアメリカへ遠征した実績が基になってアジア地域でもバスケットボール競技が広く普及しているとの評価となり、昭和11年(1936)ベルリンオリンピックで初めて正式種目に採用される遠因になったことは事実である。

当時日本は満州事変を始め、中国進駐などの戦争状態となり昭和8年には国際連盟を脱退するなど激動の時代であった。

このような中で日本に対する感情やいろいろな背景があったにも関わらず、アメリカの大学の選手及び関係者、接触した多くのアメリカの人たちは、明治大学のバスケット一行を温かく迎え歓待してくれた。遠征に参加した若者にとって、アメリカ13州を横断した約80日間の遠征で、アメリカのバスケットボールを体験し、アメリカの文化に触れ、楽しい青春の思い出として生涯心に残ったものと確信する。

以上の記事は、「駿台新報」(明治大学新聞)、「朝日新聞」、「読売新聞」、などの関連記事に加え、下記の資料を参考に作成した。

* 「明治大学渡米軍と語る」

機関誌「籠球」第7輯 昭和8年6月18日発行

- * 「籠球米国行脚漫言一束」大島眞一
機関誌「籠球」第8輯 昭和8年11月11日発行
- * 「米国籠球会界瞥見記」鈴木俊平
オリンピック・第11巻5号 昭和8年5月1日発行
- * 「籠球界の一年を観る」李想白
朝日新聞運動年鑑・籠球界回顧 昭和9年発行
- * 「米国遠征の思ひ出」 増田貞造
機関誌「籠球」第17輯 昭和11年3月12日発行
- * アメリカ遠征メンバーの一人増田貞造選手の子息 増田貞博氏 所有の写真ネガ
以上



ロサンゼルス・オリンピックスタジアム



For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」
私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに
世界に類のない、ボールとスポーツエキップメント・メーカーとして
常に完璧な製品づくりを目指しています。



DUPER®



WE ARE A SPECIALIST IN BASKETBALL GOODS.

DUPER FIVE CO., LTD.
3-5, TATEKAWA 3-CHOME, SUMIDA-KU, TOKYO 130-0023 JAPAN
TEL. TOKYO 03(3632)7045 FAX. TOKYO 03(3632)8327
URL: <http://www.duper.co.jp> E-mail: info@duper.co.jp